

「シンガポール派遣参加報告書」

京都大学文学研究科修士 1 回生 市來昌冬

以下では、今回のシンガポール派遣の①プログラム内容および学習成果、②海外での経験、③進路への影響について簡潔に報告する。

①プログラム内容および学習成果

本プログラムでは我々は Yale-NUS college に滞在し、(1)NUS (National University of Singapore) 及び Yale-NUS で計 6 回のレクチャーを受けたのに加え、(2)NUS の学生との合同ワークショップを行った。

(1)レクチャーについて

レクチャーの内容はアリストテレスやヒューム、カント等哲学史に関するものから心の哲学等現代の哲学に関するものまで内容は多岐にわたった。事前に資料が渡されたものに関しては、派遣に参加した学生達で予習勉強会を行い授業に臨んだ。私はシンガポール到着後 3 日目くらいから体調を崩し、3 回しか授業に出席できなかったが、英語で哲学の授業を聞き英語で質問をしたことは自分にとってとても有意義であった。

(2)ワークショップについて

ワークショップでは、私は一緒に派遣に参加した先輩である佐々木さんとの共同発表を行った。京大からは他に 2 人発表し、NUS からは 2 人発表したことで、計 5 組の発表が行われたことになる。NUS の学生の発表は中国哲学に関する発表もあり、NUS で行われている研究の幅広さを感じた。私にとっては初めての英語発表であったが、語学力の不足を補うための見やすいスライドと発表内容の構造そのもののわかりやすさを目指して佐々木さんと繰り返し話し合いながら発表の準備をしたことは、日本語英語にかかわらず今後の自分の発表に生きるであろう非常にいい経験だった。

②海外での経験

NUS の学生とワークショップ後の食事会で交流したほか、市内を案内してもらったり、中華料理屋に連れて行ってもらうなど、様々な場面で NUS の学生にはお世話になった。哲学関係の話にとどまらず日常生活等の会話も楽しむことが出来たため、国際的な交流を深めることが出来たように思う。また、体調を崩していた私を気遣ってくれ、彼らの優しさが心に染みわたった。

④進路への影響について

私は現在博士課程への進学を希望している。今回の派遣の 2 週間は、英語で議論ができることの重要性和自分の英語力の無さを実感する 2 週間であった。その一方で、つたないなりに英語で哲学の話をする楽しさを感じた 2 週間でもあった。研究者としてやっていくために、自分の英語運用能力を今後しっかりと向上させていきたい。